



かの かずひこ  
鹿野 和彦  
kazu.kano@aist.go.jp  
地球科学情報研究部門

# 数値地質図

## — 日本の新生代火山岩の分布と産状 —

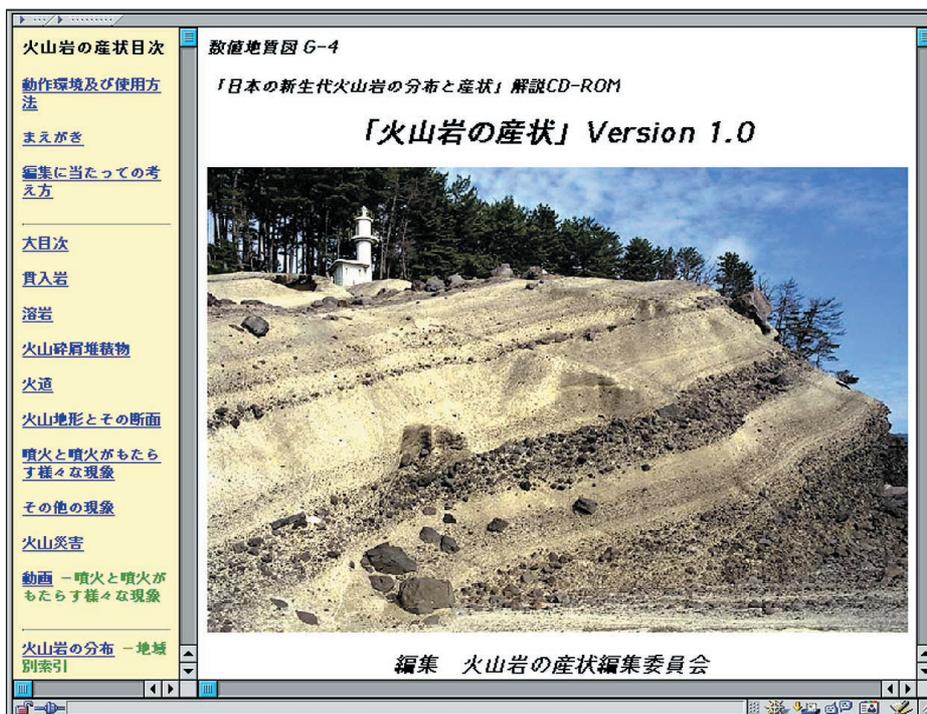
コンピュータが普及するにつれ、地質図を数値化して地理情報システム (GIS) の上で利用する動きが活発になっている。産総研地質調査総合センター(旧地質調査所)では、1995年に100万分の1日本地質図第3版の数値化を行い、その数値ファイルを出版した。それ以降、現在に至るまで、様々な数値地質図が作成・出版されてきたが、実際にどのような利用の仕方があるのか、専門家ですら想像がつかないことが多かった。そこで、数値地質図から起こしたコンピュータグラフィックスを駆使して作成したのが「コンピュータグラフィックス 日本列島の地質」(1996年、丸善刊)である。この本は日本列島の成り立ちを解説した本で、高価であるにもかかわらずこの分野では珍しく4千部も売れている。

ここに紹介する「日本の新生代火山岩の分布と産状」は、これに勢いを得て、学校教育や社会教育にも生かせるように企画され、昨年9月に旧地質調査所から数値地質図G-4として出版された。二枚のCD-ROM、G-4A「火山岩の分布」とG-4B「火山岩の産状」

からなる。そのうち、G-4Aは、本来の数値地質図そのもので、新生代火山岩の分布図をGISなどで表示するのに必要なデータファイルが収められている。G-4BはG-4Aを補完するもので、一種の図鑑になっている。第四紀火山分布図とそれぞれの火山についての画像、活動様式、噴火記録、各地域ごとの代表的な火山岩の産状を示す画像、そして、それらを理解するための詳しい解説と辞書などのファイルが収められている。いずれもWebブラウザで見ることができ、火山岩の産状が理解できるよう相互に関連づけられているので、産状を理解した上で、分布のもつ意味づけを考えることができる。

地質調査総合センターは、社会に役立つ、分かり易い地球科学情報の発信が求められている。数値地質図「日本の新生代火山岩の分布と産状」は、その嚆矢となるもので、新生代火山岩の分布図とその解説とで構成される新しい様式の数値地質図である。この種の出版物を作成することは容易ではなく、「日本の新生代火山岩の分布と産状」では4年の歳月と30人

を超える研究者の協力を要した。その甲斐あって、火山学の権威、荒牧重雄東大名誉教授は「火山に少しでも興味を持つ、すべての地学愛好者にお勧めする。特に大学レベルの地学系の学生諸君に強くおすすめする。たくさんの写真を漠然と眺めることから初めても、この世界の魅力に引き込まれてゆくことは間違い無い。実は、地学系の先生・教員、さらに火山学が専門である大学教授のみならずにも本気になっておすすめしたい」との書評を地質学の中心的雑誌である地質学雑誌に寄せていることから分かるように、その評判は高い。



### ■ 関連情報

・ <http://www.aist.go.jp/GSJ/Map/>